

チベット仏教の学び方

福田洋一

2009年6月29日 表層聖人ご命日勤行講話

2009年 6月 29日 月曜日

1

チベット仏教とは（簡単な歴史）

- ◆ 前伝期（6世紀後半～9世紀前半。特に8世紀後半から9世紀前半）
 - ◆ 古代王国が国家事業としてインドからの仏教導入を進めた。インド仏典をチベット語に翻訳。顕教のほぼ全てが訳された。
- ◆ 後伝期（11世紀～）
 - ◆ インドの高僧アティシャを1042年に招聘。
 - ◆ インド最後期の密教経典が大量に伝わる。
 - ◆ カダム派、カギユ派、サキヤ派、ニンマ派、ゲルク派などの宗派が成立する。

2009年 6月 29日 月曜日

2

チベット仏教の特徴1

- ◆ インド仏教の全体を受け継ぐ。
- ◆ 釈尊がお説きになった言葉をもっとも豊富に保存している。
 - ◆ チベットでは大蔵経という名称は存在しない。
 - ◆ 経典（カンギユル＝お言葉を訳したもの）
 - ◆ 論書（テンギユル＝論書を訳したもの）
 - ◆ 密教の経典・論書（経典の注釈も含む）が多い。
 - ◆ 「ギユル」翻訳したもの⇒チベット人の著作は含まない。

2009年 6月 29日 月曜日

3

チベット仏教の特徴2

- ◆ 出家者の規律がかなり厳格である。
 - ◆ 出家したら集団で僧院で勉強・修行をする。
 - ◆ 妻帯しない。
 - ◆ 飲酒・喫煙をしない。
 - ◆ 袈裟を着用する。（ダライラマでも同じ袈裟を着用）
 - ◆ 師から弟子への教えの伝統がインド以来、途切れずに伝承されている。
 - ◆ ナーランダーやヴィクラマシーラ寺院と同様の大寺院が建立され、多くの僧侶が仏教の開思修に取り組んでいる。

2009年 6月 29日 月曜日

4

チベット仏教の特徴3

- ◆ インド仏教を、そのまま受け継いで維持している。
 - ◆ 思想的にもインド中・後期仏教がほぼそのまま移植された。
- ◆ インドが近いので、インド人から直接教えを受ける。
 - ◆ 前伝期ではシャーンタラクシタ、カマラシーラ、後伝期のアティシヤ、シャークヤシュラーパドらは有名。
- ◆ 新たな解釈や主張よりも、インド仏教の正確な理解を目指した。
- ◆ ある意味、学問的な手法でインド仏教を研究し、整理し、体系化した。われわれの仏教学に近い立場。

2009年 6月 29日 月曜日

5

チベット仏教の中心はゲルク派

- ◆ チベット仏教の宗派
 - ◆ カダム派、カギユ派、サキヤ派、ニンマ派、ゲルク派など
- ◆ ゲルク派はジェ・ツォンカバ（1357～1419）から始まり、ダライラマが属するチベットでの最大宗派。
- ◆ 諸宗派の中で成立が一番遅い。
- ◆ カダム派を受け継ぎ、「新カダム派」とも呼ばれる。
- ◆ 政治的にも成功し、17世紀にはダライラマ政権が成立。現在に至る。
- ◆ 教育体系が組織的で未寺を次々に建立していった。

2009年 6月 29日 月曜日

6

ゲルク派の教えの特徴

- ◆ ラムリム＝覚りへの道の階梯
 - ◆ アティシヤから伝わる、全仏教を体系化する教え
 - ◆ ツォンカバの『ラムリム大論』が全てのチベット仏教の顕教思想に大きな影響を与え、現在では顕教については各宗派の違いはほとんどなくなった。
- ◆ 密教は顕教の階梯を修めたもののみ許される。
 - ◆ 生起次第（しょうきしだい）と究竟次第（くきょうしだい）という二つの段階があり、さらにその中にいくつかの段階がある。
 - ◆ 密教の願想技法が段階を追って体系化されている。

2009年 6月 29日 月曜日

7

ゲルク派の教育カリキュラム

- ◆ ゲルク派の学問の特徴は、ツォンカバ自身の思想傾向もあり、
 - ◆ 全体的（仏教の教説をもれなく含む）
 - ◆ 段階的（それを段階を追って理解が進められるように配置）
 - ◆ 論理的（その移行に論理的な根拠を示す）
- ◆ 教科書が多数作られ、システムティックに弟子を教育できる。
- ◆ 入門（初等論理学・修行階梯論・学説綱要書など）→論理学（般若・中観と並行して学ぶ）・般若思想→中観思想→律→阿毘達磨→試験勉強を20年以上かけて進み、最終的に「ゲシェ（ハランバ）」（博士号）をとる。
- ◆ そのあと弟子の教育に当たるか、密教過程に進む。

2009年 6月 29日 月曜日

8

チベット仏教を学ぶ必要性

- ◆ 1500年以上をかけて積み重ねられたインド仏教の全体像を、整理された形で分かりやすく理解することができる。
- ◆ インド仏教についての最も豊富な情報量を持っている。
- ◆ 長い時間をかけて試行錯誤しながら積み重ねられてきたインド仏教の思想を、チベット人は長い時間をかけて、相互に議論を積み重ねながら真意を問ひ、比較し、整理して体系化した理解を打ち立ててきた。その助けを借りることで、単独でインド仏教を理解するよりも遙かに効率的かつ正確にインド仏教の全体像に辿り着ける。
- ◆ その理解の伝統が今でもチベットの僧院において傳承されている。その教えを直接聞くことができる。

2009年 6月 29日 月曜日

9

ラムリムの素晴らしい点

- ◆ アティシャの説いた「覺りへの道の階梯」という教えの偉大さについてツォンカバは『ラムリム』の最初に4点指摘している。
 1. 世尊の全ての教えが矛盾なく理解できるという偉大さ
 2. 聖言全てが教誡として現れるという偉大さ
 - 2.1. 「教誡」とは、聖典の言葉そのままでは我々が理解しづらいので、それを我々に納得できるように説明してくれる教え。
 3. 口伝によって世尊の真意が容易に理解できるという偉大さ
 4. 大きな悪行が自然に消滅していくという偉大さ
- ◆ 『ラムリム』からの抄訳参照

2009年 6月 29日 月曜日

10

チベット仏教を学ぶために

- ◆ 学生・僧侶・一般の方
 - ◆ 日本語で十分に学ぶことができる。特にダライラマ14世親下の翻訳がかなり出ている。ただし、訳は玉石混濁。読む順序が必要。
 - ◆ ボタラ・カレッジ（チベット人の主催するチベット仏教学習のためのスクール）での講座や関連出版本もお薦め。
- ◆ 大学院生・研究者
 - ◆ まずチベット語を学び、次にチベット仏教の常識を身に付ける。
 - ◆ チベット語をチベット語として理解し、かつ適切な日本語に訳すための定石を知る必要がある。
 - ◆ 本には書かれていないので独学は無理。指導者に就くこと。

2009年 6月 29日 月曜日

11

具体的には・・・（1）

- ◆ 日本語でのチベット仏教を学ぶためのブックガイド
 - ◆ 『ダライ・ラマ瞑想入門—至福への道』ソナム・ギェルツェン訳、春秋社（ラムリムの全体像）
 - ◆ 『ダライラマ仏教入門』石濱裕美子訳、光文社知恵の森文庫（ダライラマの理解するチベット仏教の全体が凝縮されている。）
 - ◆ 『宇宙のダルマ』永沢哲訳、角川書店（タイトルは変だが、原題は *The World of Tibetan Buddhism* で、顕教だけではなく、密教についても体系的に紹介している。）
 - ◆ 『ダライラマの仏教哲学講義』福田訳、大東出版社（亡命後の早い時期に行われたハーバード大学での連続講義。チベット仏教の理解を伝えようという意欲ある本。）

2009年 6月 29日 月曜日

12

具体的には・・・(2)

- ◆ 最近のダライラマの関心は仏教ではなく、人間としての普遍的な倫理に向かっている。ただし、その背景に仏教の理解があることを忘れてはならない。
- ◆ 『幸福論』 塩原通緒訳、角川春樹事務所（何度も繰り返し読むべき本。一生もの。Ethics for the New Millenniumの訳。）
- ◆ 『なぜダライ・ラマは重要なのか』 ロバート・サーマン著、鷲尾翠訳、講談社（サーマンはアメリカを代表するチベット学者で若い頃からダライラマと親交がある。ダライラマの育ってきた家庭とサーマン教授の関わりが、チベットと西洋世界の幸福な出会いとして語られる。）

2009年 6月 29日 月曜日

13

その他のダライラマの本

- ◆ 密教
 - ◆ 『ダライ・ラマ 死と向きあう智慧』 ジェフリー・ホブキンス編、ハーディング祥子訳、地湧社（ゲルク派の立場での死の訓練だが、実質は密教の究竟次第についてのバンチェンラマ一世の偈の解説。ホブキンスもアメリカを代表するチベット学者。）
- ◆ ビデオ
 - ◆ 『ダライラマ法王Teaching 2006 in 広島』 DVD Collection Box (7 DVDs)、文殊師利大乘仏教会 (16,800円)（2006年広島にお呼びしたときの講義・講演の全記録。通訳の訳ではなく、字幕付きなので内容は凝縮されている。字幕はチベット仏教の専門研究者野村正次郎氏なので信頼できる。氏は広島で日本で唯一のチベット仏教寺院デブン・ゴマン日本別院龍蔵院を維持している。）

2009年 6月 29日 月曜日

14

ポタラ・カレッジ関係の出版

- ◆ 『ラムリム伝授録I・II』 ソナム・ゲルツェン、藤田省吾（日本語で読める詳細なラムリムの解説書。訳も分かりやすい。直販のみ。）
- ◆ ほとんどは分かりやすい日本語訳であり、良書である。ただし、本格的なものなのでレベルが高いので、読み通すのは骨が折れる。ダライラマの本で基本的な知識を身に付けてからのほうがよい。
- ◆ 絶版のものはコピーで販売している。Amazonには載らず、直販の本もあるので、基本的には、直接尋ねてみるのがよい。
- ◆ ポタラカレッジのHP: <http://www.potala.jp/top.html>
- ◆ 本の紹介ページ: <http://www.potala.jp/lib/book/book.html>

2009年 6月 29日 月曜日

15

専門家を目指す人のために・・・

- ◆ チベット仏教の専門家としてではなく、インド仏教も含め、大乘仏教を研究するには、チベット仏教の知識が有益である。
- ◆ チベット語
 - ◆ これまでの経験から、週一の講読を3年続けないと読めるようにならない。
 - ◆ サンスクリット語に還元するのではなく、チベット語としての文法的な理解が必要。
 - ◆ 辞書や文法書では半分からいしか理解できないので、指導者に習う必要がある。
 - ◆ ゲルク派の文献を講読するのが、学習方法としては最適。

2009年 6月 29日 月曜日

16

専門家を目指す人のために・・・

◆ チベット仏教の理解

- ◆ チベット人の学習カリキュラムを考えると、我々の知識は非常に限られていることが分かる。したがって、インド仏教の知識からチベット仏教文献を読むのは危険である。
- ◆ まず、論理的な表現方法を知る必要がある。これは本に書いていないことなので、やはり指導者に就く必要がある。指導者は、日本人に分かるように教えられる必要がある。
- ◆ 次に、基本的な学説を「宗義書」と呼ばれる学説綱要書で学ぶ。仏教のほとんどの概念には「定義」があるので、その定義を学ぶ必要がある。
- ◆ ツォンカバなどのゲルク派祖師たちの著作を一定期間講読する。日本人では分からないことはチベット人高僧に教えてもらう。

2009年 6月 29日 月曜日

17